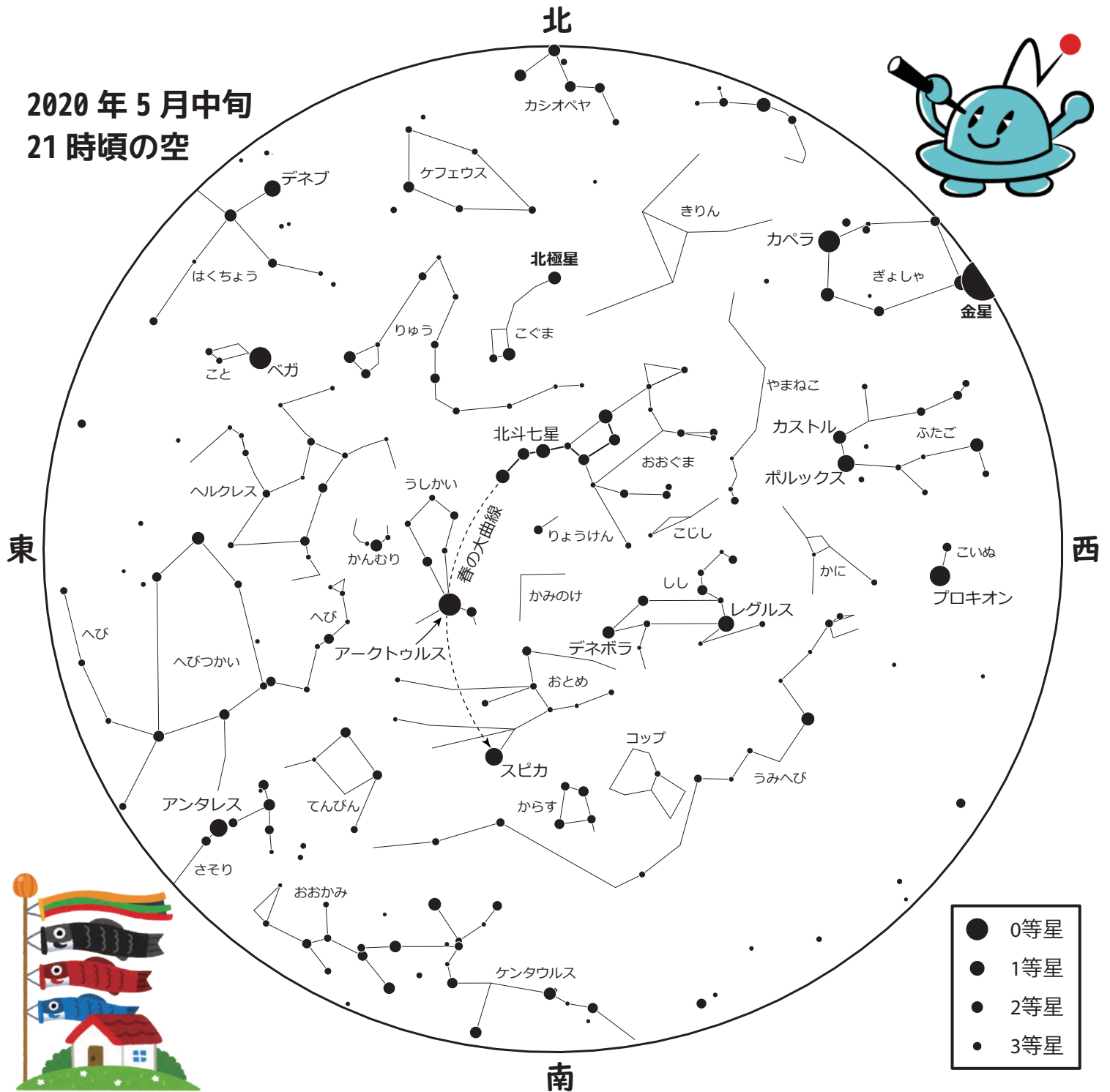


# 阿南市科学センター

# 5月の星空案内

2020年5月中旬  
21時頃の空



5月は春霞みも落ち着き、移動性高気圧の影響で晴れた日は透明度の良い空がひろがりやすく、天体観測に適した時期でもあります。北よりの空の高い位置には柄杓(ひしゃく)のような形をした七つの星からなる『北斗七星』(おおぐま座の一部)が見え、その柄の部分延長していくとアークトゥルス(うしかい座)やスピカ(おとめ座)といった春の明るい星たちをたどることができます。この北斗七星からスピカまでの大きな曲線は『春の大曲線』とも呼ばれています。ちなみにアークトゥルスやスピカはそれぞれ『麦星』や『真珠星』という和名があり、さらにアークトゥルスは男性、スピカを女性にみたててセットで『夫婦星』(めおとぼし)と呼ぶこともあるようです。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

# 5月の月の満ち欠けと惑星について



上弦

1日, 30日



満月

7日



下弦

14日



新月

23日

## 5月の天体観望会で月が見える日時は？



5/2(土)・・・全ての回で観測可能



5/30(土)・・・全ての回で観測可能

水星：5/22の日没後、西のごく低空で金星と接近して見える【約-0.5等】

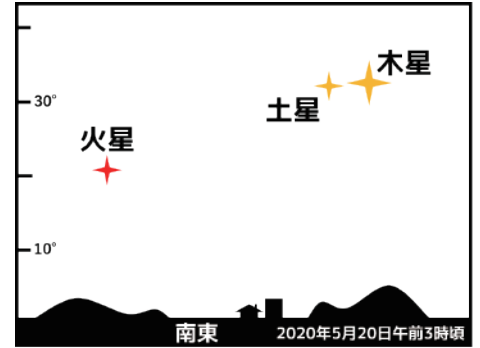
金星：上旬～中旬頃まで日没後に西の低空で見える。【約-4等】

火星：深夜過ぎ木星と土星のあとに続いて昇ってくる【約0等】

木星：深夜過ぎ南東の空で土星と並ぶ姿が印象的。【約-2.5等】

土星：深夜過ぎ南東の空で木星と並ぶ姿が印象的。【約0.5等】

※木星、土星、火星の見え方は右図を参照。



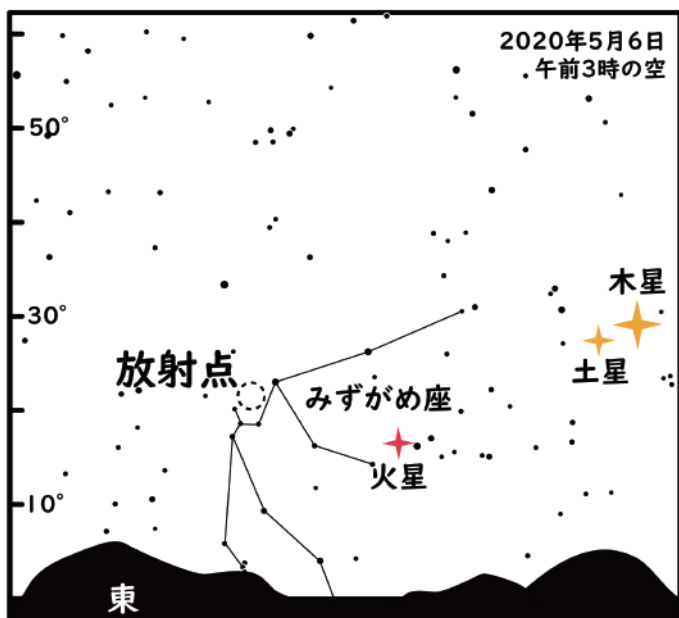
## 注目の天文現象など

### 【みずがめ座η(エータ)流星群】

ピーク時は例年1時間に約10個程度の流星が見えます。今年の出現のピークは5月6日の午前5時ごろ(日本時間)と予想されています。観測は5日の深夜から明け方にかけて行うと良いでしょう。しかし今年は7日が満月のため、月明かりの影響が強いです。なおこの流星群の母天体はハレー彗星だと考えられています。



2017年に撮影したみずがめ座η流星群。(K. Imamura)



みずがめ座η(エータ)流星群の放射点の位置。(近くに木星・土星・火星も見えぞ!)

### 【水星探査機ベピコロンボをお見送り】

水星探査機ベピコロンボは日本のJAXAとヨーロッパのESAが協力して作り、2018年10月に打ち上げられた人工衛星です。約7年かけて水星に向かう計画で(2025年到着予定)、計9回ものスイングバイを行い航行します。スイングバイは惑星の重力を利用し、人工衛星の進む方向や速度を変化させることができる技術で、搭載されている燃料を節約することができます。ベピコロンボはスイングバイを地球で1回、金星で2回、水星で6回行う予定で、記念すべき第一回目が4月10日に行われました。このとき探査機は地球に接近するため、各地でベピコロンボの輝きが観測されました。当館でも四国最大の望遠鏡で12~13等の明るさで観測することができ、無事にお見送りことができました。水星まで行ってらっしゃい!



口径113cm望遠鏡で観測したベピコロンボの光跡。(2020年4月10日20時22分頃)